つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく

ほうぷ
NPO法人
地域生活サポートネット

No. 70
2021 年 11 月発行

〒535-0021 大阪市旭区清水 2-16-22　TEL06-6953-2665 fax06-6953-2655 E-mail houpu@r.river.sannet.ne.jp

新ほうぷ　竣工しました！

事業所は 11/24 から開所

構想から２年、ようやく新ほうぷが竣工しました。2019 年の秋から検討を始め、昨年より設計を開始して、今年４月から工事をしてきました。近隣の方々には７か月余りの間、いろいろとご迷惑をおかけしました。心よりお詫びとお礼を申し上げます。地域の方々にも利用していただける場所にしていきますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。

着工から、毎週のように開催した建築会議。考えたり悩んだり決めたりすることが多くありました。小さな法人にとって大事業でした。職員の思いがたくさん詰まった建物になりました。叶えたいことは多くあっても、予算は限られています。削っていく作業も必要でした。その一つが、「ひだまりテラス」構想でした。予算不足のため、道に面したスペースにオーニングテントを設置することをあきらめなければなりませんでしたが、あきらめきれなかった私たちは、助成金を申請し、皆さんに応援金をお願いすることにしました。木口福祉財団の助成金 100 万円をいただけることになり、皆さんからの応援金やカンパも集まって、オーニングテントを設置することができました。

地域福祉振興助成をいただきました「公益財団法人木口福祉財団」さま、応援金やカンパをいただきました皆さま、ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

通りがかりの方が休憩できたり、子どもたちが「しごと体験」などを通じて地域の方々と交流できたり、地域の方々が風通しのよい空間で気軽に交流できたりする、そんな「誰もが夢を語り、つながり合う」場づくりを展開していきます。

建物が完成し、ここからが次のスタートです。職員一同、気持ちを新たに次のステップへと進んでいきます。子どもたちの成長を見守っていく場でありたい、子どもの居場所でありたい、子どもや地域の課題を一緒に解決していく場でありたい、次世代の育成の場になりたい、誰もが自分らしく生きていくことができるようサポートしていきたい。やりたいことがいっぱいです。地域の方々とつながりながら職員それぞれがやりたいことも叶えたいと思います。この会報を読んでくださっているみなさまも、やりたい夢を実現しに

「ほうぷ」においでください。遠方の方々も、お近くにおいでの時には、どうぞお立ち寄りください。

最後になりましたが、**設計をしていただきました「ちびっこ計画」の大塚様、林様、施工をしていただきました「株式会社コスモス」の西田様をはじめとする多くの業者の方々、本当にお世話になりました。**私たちの想いを聴き、受けとめて一緒に考えてくださいました。心よりお礼申し上げます。

NPO 法人地域生活サポートネットほうぷ　向井裕子

放課後等デイサービス
自己評価＆満足度調査を実施しました

満足度調査（保護者）の集計結果

【質問項目一覧】

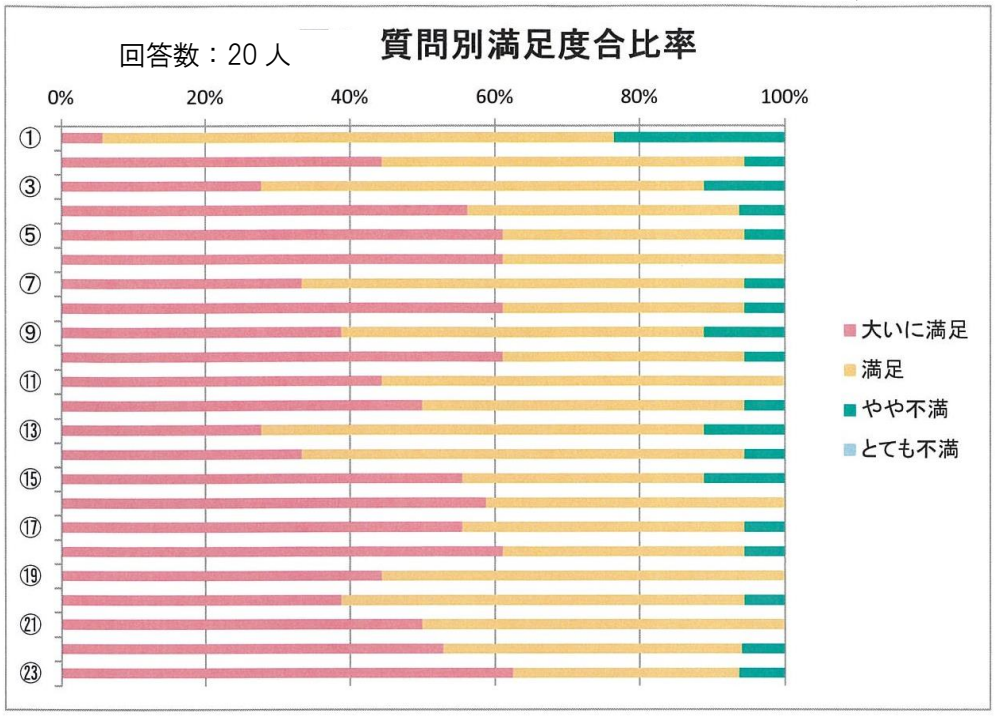
＜環境・体制整備＞
①子どもの活動等のスペース　②職員の配置数や専門性　③事業所の設備等

＜適切な支援の提供＞
④個別支援計画　⑤平日の活動内容　⑥土曜日や長期休暇中の活動内容　⑦地域との交流
⑧子どもの主体性の尊重　⑨学校や福祉サービス事業所との連携

＜保護者への対応＞
⑩支援の内容、利用者負担等の説明　⑪子どもの状況についての保護者との共通理解
⑫保護者への面談や助言等の支援　⑬保護者間交流や保護者研修会　⑭苦情対応
⑮保護者への連絡や情報伝達　⑯保護者への情報提供などのわかりやすさ
⑰個人情報の取り扱い　⑱職員への相談のしやすさ

＜非常時等の対応＞
⑲危機管理マニュアルの周知等　⑳避難訓練やヒヤリハット報告の作成と共有等
㉑感染症対策など

＜満足度＞
㉒子どもが通うのを楽しみにしていますか　㉓事業所の支援内容に満足していますか



～事業所自己評価～

	チェック項目	評価 はい			いいえ	改善目標や工夫している点
体制・環境	1 職員の配置数は適切か	4	3	2	1	必要配置数以上の児童指導員と、保育士1名を配置しているが、人員配置数は十分とはいえない。
	2 事業所の設備のバリアフリー化の配慮がされているか	4	3	2	1	仮事務所のため、配慮に限界がある
業務改善	3 保護者向け満足度評価表を活用するなどして保護者の意向を把握し改善に繋げているか	4	3	2	1	満足度調査を行い、職員全員で改善につなげる努力はしている。
	4 自己評価の結果を法人の会報やホームページなどで公開しているか	4	3	2	1	例年行っている。今年度も行う予定。
	5 職員の質の向上をはかるために研修の機会を確保しているか	4	3	2	1	研修は行っているが、コロナ禍で回数は例年より減っている。
適切な支援の提供	6 支援開始前に職員間で打ち合わせをし、その日の支援内容や役割分担について確認しているか	4	3	2	1	毎朝、ミーティングで、打ち合わせと確認を行っている。
	7 支援終了後に職員間で振り返りをし、気付いた点を共有しているか	4	3	2	1	アルバイトの振り返りを行い、その内容を翌朝のミーティングで共有している。
	8 活動記録・日報など、日々の活動記録を取り、支援の改善につなげているか	4	3	2	1	
	9 計画的に活動を進めるために年間の活動プログラムを作成しているか	4	3	2	1	
	10 活動プログラムの立案をチームで行い、工夫をしているか	4	3	2	1	
	11 平日、土曜日、長期休暇に応じて、活動内容を工夫し、細やかに支援しているか	4	3	2	1	活動内容を職員で話し合って決め、工夫しているが、より細やかな支援につなげるよう努める
	12 子どもの状況に応じて、個別活動とグループ活動を適宜組み合わせて個別支援計画を作成しているか	4	3	2	1	
	13 こどもと保護者の希望を聞き、ニーズや課題を客観的に分析して個別支援計画を作成しているか	4	3	2	1	行っているつもりであったが、満足度調査から、保護者の期待に十分に応えられるレベルではない
	14 個別支援計画の支援内容を日々の支援に役立てる工夫をしているか	4	3	2	1	支援内容は共有している。支援に役立てる工夫をすすめる。
	15 定期的にモニタリングを行い、個別支援計画を見直し、職員間で支援内容を共有しているか	4	3	2	1	
	16 医療的ケアに必要な子どもの受入れ体制を作っているか	4	3	2	1	常勤職員全員が、喀痰吸引3号研修を受講している
法人理念に沿う活動	17 必要に応じて関係機関と連携しながら計画を作成し支援を行っているか	4	3	2	1	連携ができている機関と、あまり連携ができていない機関がある。
	18 こどもの将来に向けて、こどもの体験を増やす活動に計画的に取り組んでいるか	4	3	2	1	計画はしているが、コロナ禍で十分な取り組みができていない。
	19 こどもの自己肯定感をはぐくむ取り組みをしているか	4	3	2	1	取り組みは行っているが、十分とはいえない。
	20 地域住民や関係機関と連携し、地域社会の一員として育つ取り組みをしているか	4	3	2	1	取り組みは行っているが、コロナ禍で十分とはいえない。

	チェック項目	評価 はい			いいえ	改善目標や工夫している点
保護者や地域との連携	21 学校との情報共有（行事予定や下校時刻の確認、連絡調整等）を行っているか	4	3	2	1	行っているが、より努力が必要
	22 こどもの状況を保護者と伝えあい、こどもの発達の状況や課題に対して共通理解を持っているか	4	3	2	1	行っているが、より努力が必要
	23 学校を卒業し障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、支援内容等の情報を提供する等しているか	4	3	2	1	昨年は対象児がいなかった。一昨年は行った。
	24 発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	4	3	2	1	コロナ禍で、エルムおおさかは研修案内のみとなっており、助言を受けることができていない。
	25 地域自立支援協議会や地域活動協議会に参加しているか	4	3	2	1	
	26 地域に開かれた事業所運営を行っているか	4	3	2	1	
保護者への説明責任	27 重要事項説明書や個人情報の取り扱いについて、保護者に丁寧に説明しているか	4	3	2	1	
	28 保護者からの相談に適切に応じ、必要な助言や支援を行っているか	4	3	2	1	
	29 保護者会や保護者研修会を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	4	3	2	1	コロナ禍でこの一年は保護者同士の連携支援を行うことができていない。
	30 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備し、苦情があった場合、迅速に対応しているか	4	3	2	1	苦情に対してスタッフ間での共有は行っている。体制の整備をすすめていく。
	31 定期的に会報等を発行し、活動報告や情報の発信をしているか	4	3	2	1	
非常時等対応	32 緊急対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対策マニュアルを作成し、職員や保護者に周知しているか	4	3	2	1	近年、保護者へのマニュアルの周知ができていないため、毎年行うようにしていく
	33 非常災害に備え、定期的に避難・救出、その他必要な訓練を行っているか	4	3	2	1	
	34 新型コロナ感染症対策について、職員間で話合い、マニュアルを作成し、対策をしているか	4	3	2	1	
	35 ヒヤリハット報告書を作成し、事業所内で共有し、事故等の防止に努めているか	4	3	2	1	
	36 食物アレルギーのあるこどもについて、おやつや調理などの対応がされているか	4	3	2	1	
	37 虐待を防止するため、職員の研修の機会を確保する等、対応をしているか	4	3	2	1	虐待防止委員会の立ち上げを行い、研修計画作成などを行っていく

～保護者アンケート～　保護者の皆様からのコメント(抜粋)

- ✧ いつも丁寧にご対応いただきありがとうございます。親としては子育てに迷いや悩みを感じる時があります。そんな時、悩みを共有できる機会をコロナ禍の後に持っていただけるとありがたいです。
- ✧ 長期休みを始め、いつも個々の状況に応じた対応をしていただきありがとうございます。
- ✧ 親が安心して働けるのも、ほうぷさんの存在があってだと思います。又、放課後に過ごせる場所があることは子どもにとってもとても大きな存在だと思います。小学生から高校生の幅広い年齢の子どもとのかかわりはすごく大切で重視していますが、感染症の流行している時は、スペースの確保やマスク着用が難しいようで、少し気になります。まだ、予防法が手洗いマスクくらいで、環境での配慮でしか予防もなく大変ですが、よろしくお願いします。
- ✧ 活動スペース：現在の施設でも十分な広さだと思う／職員の専門性：本人の特性をよく理解してもらえている／個別支援計画：明確に本人の今の苦手分野を指摘してもらえ、その対策も考えてもらえる／活動内容：本人がとても楽しく過ごせているので、大いに満足している。長期休暇中などは、急なお願いにも丁寧に対応してもらえ助かっています。本人はクッキングが楽しいみたい／主体性：本人の興味を引きだしてもらえると感じる／学校等との連携：担任の先生とも連絡を取っていただいており、本人の様子が伝わっている／共通理解：本人から聞く話とズレがなく、安心／保護者支援：定期的に面談していただいており満足／情報伝達：細かく連絡帳を書いていただいており、読むのが楽しみ／情報提供：毎月のおたより・ＦＡＣＥＢＯＯＫ等楽しみに見ている。おばあちゃんも見れて喜んでいる／相談のしやすさ：相談しやすい雰囲気／非常時対策：感染症対策で、職員がコロナ感染した時に、クラスターが発生することなく終わったことが、しっかり感染対策をされていると実感
- ✧ 厳しく優しく接してくださりありがとうございます。新しいほうぷの完成が楽しみ。

放課後等デイサービス「楽童ほうぷ」報告

夏休み期間中の感染拡大の余波をうけて、２学期がはじまって間もなく、各学校で新型コロナウイルス感染者が判明し、休校措置をとる学校が続出しました。楽童ほうぷでも、子どもの在籍する学校全体が休校している場合、学年・学級単位での閉鎖にとどまっている場合のそれぞれについて、利用の可否についての方針を定め、各ご家庭にもご協力をいただきながら対応してきました。常勤職員の定期検査も行ってきました。

ワクチン接種が進むにつれて、社会経済活動への規制が徐々に緩和され、人々の動きも活発さを取り戻しつつあります。しかし、ウイルス感染のリスクをどこまで回避すべきか（あるいは許容すべきか）という点について、さまざまな考えが入り乱れています。どの

ように対応していくのか悩む日々ですが、これまでの対策を継続して子どもたちの安心と安全を確保しながらも、これまで制限を多く設けてきた子どもの成長にとって大切な活動に、注意しながらも前向きに取り組んでいきたいと考えています。

１年半ものあいだ、「非常事態」がずるずると継続し、日常化していくことに慣れつつも、いつまでこの日常が続くのかというもどかしさを、おとなも、子どもも感じながら日々の暮らしを紡いでいます。子どもたちも、さまざまなことを我慢し、あきらめてきました。この悩ましく難しい状況で、誰もがそれぞれの事情を抱えながら、ただ生きていくだけでも精一杯がんばっている。子どもたちと過ごす日々の中で感じる率直な思いです。

緊急事態宣言が解除されてからは、子どもが参加してのクッキングも再開しています。
みんなで協力してつくったお昼ごはんは、おいしさも達成感も格別です。

クリスマス会に向けた話し合いもはじまっています。

グループワーク（８月～１１月） 学

２０２１年　8月２８日（土）　参加者：子ども8名
２０２１年　9月２５日（土）　参加者：子ども8名
２０２１年１０月　9日（土）　参加者：子ども7名
２０２１年１１月　6日（土）　参加者：子ども7名

グループワークは、「互いの考えや気持ちを表現し合い、聴き合う体験を学ぶ」ことを目的とした活動です。子ども向けヨガを参考にしたリラックス体操と、修復的対話の場づくりの手法であるトーキングサークルを組み合わせて、３０分間程度の時間で実施しています。

８月は、「夏休みの楽しかったこと」、９月は「使ったことのある楽器・好きな楽器」、１０月は「好きな秋の食べ物」、１１月は「好きな行事」をテーマに、用意された絵カードを選んで、自分の思いや考えを順番に発表しました。９月は、千里金蘭大学からの実習生にも参加してもらいました。

発言は得意でも、相手の話に注意を向けるのが苦手な子どももいれば、逆に、周りの様子にはよく注意を払えるものの、自分の意見を人前で発表するのは苦手な子どももいます。それぞれの子どもが、苦手なことに少し向き合ってがんばる機会にもなっているように思います。

大学生との音楽交流会（９月・１０月）

学 遊

２０２１年　9月２５日（土）　参加者：子ども　８名、実習生５名
２０２１年１０月　2日（土）　参加者：子ども１２名、実習生５名
２０２１年１０月１６日（土）　参加者：子ども１１名、ボランティア３名

９月２５日と１０月２日は、千里金蘭大学の「こども音楽療育実習」受け入れの一環として、

実習生５名の企画・運営による音楽交流プログラムを実施しました。保育を学んできたこともあり、音楽をさまざまな遊びにつなげていく工夫を凝らしてくれていました。

１０月１６日には、武庫川女子大学音楽学部の大学生有志による音楽プログラムも実施しました。音楽専攻ならでは本格的な演奏も披露してくださり、子どもたちの気持ちを引き付けていました。

空気砲ロケットで「地球脱出ゲーム」 学 遊

２０２１年　９月１１日（土）　参加者：子ども６名

「作って遊ぶ」活動の一環として、空気ポンプに差し込んで飛ばせる紙ロケットづくりをしました。できあがった空気砲ロケットを使い、「地球環境が悪化したので、他の惑星に避難しなければいけなくなった」という近未来ＳＦのような設定のもと、惑星に見立てた的を立て、的を囲むフラフープのエリア内にロケットを飛ばす「地球脱出ゲーム」をしました。みんなで協力し、すべてのロケットが無事に惑星にたどり着きました。

SDGs（持続可能な開発目標）が喫緊の課題とされていますが、遊びの中に社会課題への視点を織り交ぜることで、考えるきっかけの種をまくことになればとのささやかな願いもあります。

防災訓練＆地域清掃 住 働 学

２０２１年　９月１８日（土）　参加者：子ども６名

子どもたちの生活者としての問題意識を高める観点から、防災訓練と地域清掃を組み合わせた体験プログラムを実施しました。たまたま未明から朝にかけて、台風 14 号が近畿地方を通過していったタイミングとも重なり、子どもも防災を少し意識していました。

防災訓練としては、ヘルメット装着、避難経路の確認を行いました。活動をとおして、小学生低学年のメンバーにとってはヘルメットの寸法が合わないことがわかり、低年齢の子ども向けの頭巾などを新たに備品として用意しておく必要性を確認できました。また、実際に避難経路を歩く前に、淀川氾濫時の浸水想定をもとに、50 ㎝、100 ㎝がどれくらいの高さになるのか、段ボールを立てて体感してみる活動を取り入れると、水害の危険性を視覚的にイメージでき、子どもたちにも強く印象に残ったようです。

公園周辺のゴミ拾いは、今回で３回目になります。お菓子の袋、たばこの吸い殻、ビールの空き缶などが落ちていました。ゴミ拾いの活動自体に、子どもたちも慣れてきたようです。ゴミ拾いが一段落したあとは、希望者はキレイになった公園に残って遊びました。

かぼちゃランタンづくり 住 学 遊

２０２１年１０月２３日（土）　参加者：子ども9名

ハロウィンにちなんで、透明のプラコップと画用紙を素材に、かぼちゃランタン作りに取り組みました。プラコップを芯材として用い、短冊状に切っておいた色とりどりの画用紙を放射線状に貼り付けて丸め、コップの底部に貼り付けると、かぼちゃのような形になります。

プラコップの色付け、画用紙の色選び、目や口のパーツ選びで、オリジナリティあふれるかぼちゃランタンができました。最後は、部屋を暗くして、LED ネオンを入れて吊るしてみました。子どもたちから「わぁー」「おぉー」と感嘆の声がもれていました。

ハロウィンスペシャルゲーム 衣 学 遊

２０２１年１０月３０日（土）　参加者：子ども１４名　ボランティア3名

今年のハロウィンイベントは、オリエンテーリング形式のスペシャルゲームを実施しました。子どもたちには、あらかじめシール台紙を渡します。ゲームの内容は、公園に仕掛けられた７か所のチェックポイントを探し、チェックポイントに吊るされているシールを集めて、シール台紙の所定の位置に貼ると、ハロウィンにちなんだ７文字の言葉が浮かび上がってくるというものです。

午前中に牛乳パックでつくったオリジナル仮装グッズ（帽子）をかぶり、いざ公園へ！　グループで協力しながら、時にはグループの枠を超えて声をかけあい、見事に全員がチェックポイントを見つけ、シール台紙を完成させました。

浮かび上がった言葉は…「おかしチケット」♪ 帰宅前に、一人ずつ「おかしチケット」をスタッフに見せて、お菓子の詰め合わせ袋をおみやげに持ち帰りました。

●地域活動報告●

９月１５日(水)　旭区地域自立支援協議会定例会
９月１６日(木)　清水子育てボランティアグループ定例会（清水小学校）
１０月　７日(木)　清水地域活動協議会地域福祉部会（地域交流センター）
１０月２０日(水)　旭区地域自立支援協議会　相談支援部会
１０月２１日(木)　旭区地域自立支援協議会 和んで座談会実行委員会
＊８月～１０月　全国児童発達支援協議会の研究事業の会議に参加（計７回）
＊９月発行　「はらっぱ」（子ども情報研究センター機関誌）に寄稿

●助成金報告●

“地域交流の場づくりのためのオーニングテントの設置工事”

収　入	公益財団法人木口福祉財団　2021年度地域福祉振興助成	1,000,000 円
	受取寄付金(ひだまりテラス応援基金＆カンパ)	569,700 円
支　出	オーニングテント工事(税込)	1,569,700 円

●賛助会員募集中●

“地域生活サポートネットほうぷ”は、支える人も支えられる人も、一人ひとりを大切にした活動をしていきます。“地域生活サポートネットほうぷ”の応援や資金面の支援をしてくださる賛助会員を募集しています。賛助会費は、当法人の活動のために大切に使わせていただきます。ほうぷ新拠点へのカンパもどうぞよろしくお願い申し上げます。

賛助会費	個人	一口	2,000 円／年
	団体	一口	5,000 円／年

＜賛助会費やカンパ、ひだまりテラス応援基金支援金をいただきました＞

本当にありがとうございました。

11 月 6 日土曜日に、放課後等デイサービス「楽童ほうぷ」の利用者（保護者）の皆さまと、地域の方々を対象にお披露目会をしました。26 名の方々が来場してくださいました。本当にありがとうございました。お披露目会の日にご都合がつかなかった方々、いつでもお声かけください。また、お近くにおいでの時には、ぜひお立ち寄りください。次回の会報で、建物のあちらこちらをご紹介していきたいと思います。どうぞお楽しみに。

だんだんと寒さが厳しくなってきます。来月はもう師走です。コロナにもインフルエンザや風邪にも気をつけて、くれぐれもご自愛ください。

編集･発行：NPO 法人 地域生活サポートネットほうぷ
〒535-0021　大阪市旭区清水 2-16-22
Tel　06-6953-2665　　Fax　06-6953-2655
e-mail　houpu@r.river.sannet.ne.jp
http://supportnet-houpu.com/

住所が変わりました
（元に戻りました）

【郵便振替】００９００－１－２０３６３８
【ゆうちょダイレクト電信振替】記号００９００　番号２０３６３８
【他の金融機関からのお振込】当座　店名０９９　番号０２０３６３８

加入者名：特定非営利活動法人 地域生活サポートネットほうぷ